

商學士切田太郎
纂 編

初等商業教本

後 編

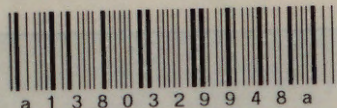
東京
關發社

福岡第一師範學校
(學校圖書)

登錄 番	第	號
社會科學門		
教育部		
教授法	款	實業科
目		次
全	2	冊ノ内第 2 冊
分類 番	第	號
372.6		



図書 和図書 遡



a 1 3 8 0 3 2 9 9 4 8 a

福岡教育大学蔵書



関税と物貨

江戸豊島屋東屋

670.78

Se 93

(2)

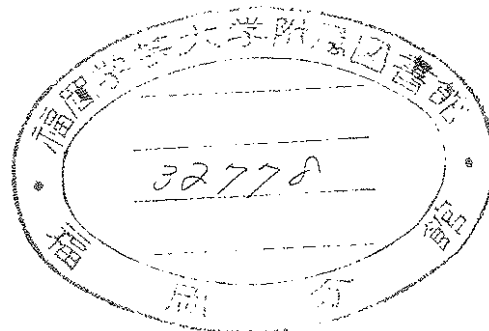
初等商業教本凡例

- 一、本書は、現行の小學校令および同令施行規則に基き、高等小學校の商業科用に充つる目的にて、編纂したり。
- 一、本書は、児童をして、商業に關する一般の知識を求得せしめんことを期し、商業教授上もつとも適切なる材料を選びて、これを觀察的に記述し、かつ、圖畫、雛形等を多く挿入して、児童の理解を容易ならしめんことを力めたり。
- 一、本書は、他の諸教科中、ことに、算術・地理等との聯絡に注意して、教授の統合を全からしめんことを圖りたり。
- 一、本書は、一學年および四十週の割合にて、教科の分量を定められど、毎課長短一様ならざるがゆゑに、教授者は一週に二課を授け、あるひは、二週に亘りて一課を授くるなど便宜、これを適用すべし。
- 一、本書は、別にこれに附屬する教員用書を具へたれば、教授者は、便宜これを參照せんことを要す。

初等商業教本後編

目次

第一課	商人の信用	一	第十五課	爲替手形	三十六
第二課	資本	三	第十六課	割引	三十九
第三課	利益	六	第十七課	荷爲替	四十一
第四課	貸借	八	第十八課	倉庫業	四十五
第五課	擔保品	九	第十九課	保險業	四十七
第六課	利子	十一	第二十課	取引所	五十
第七課	資本の運轉	十四	第二十一課	公債と株券	五十二
第八課	會社の種類	十六	第二十二課	商業上わが國の位置	五十五
第九課	會社の種類	十八	第二十三課	古今の貿易國	五十八
第十課	銀行	二十	第二十四課	重要な貿易品	六十一
第十一課	銀行預金	二十四	第二十五課	貿易港	六十四
第十二課	爲替	二十七	第二十六課	貿易商の徳義	六十七
第十三課	小切手	三十	第二十七課	關稅	七十
第十四課	約束手形	三十四	第二十八課	輸出入手續	七十一



第二十九課	外國の貨幣	七十三
第三十課	外國の度量衡	七十六
第三十一課	手形交換所	七十九
第三十二課	興信所	八十一
第三十三課	商業會議所	八十五
第三十四課	同業組合	八十八
第三十五課	商法	八十九
第三十六課	租税	九十一
第三十七課	營業稅	九十四
第三十八課	商人終局の目的	九十六
第三十九課	簿記	九十九
第四十課	商業簿記例題	百二

目次終

初等商業教本後編

商業學士 切田太郎 編纂

第一課 商人の信用

信用とは、取引上、他人が、かれはわれに損害を與ふるものにあらずと、信じて疑はざるをいふ。

信用厚き商人は、一方より掛にて買ひたる商品を、他の一方にて、現金賣りとなすことも得るがゆゑに、他人の資本にて、賣捌の利を

獲ることを得べし。

また、資本の不足なるときには、ただ一片の手形を振り出せば、正金同様の効を生じ、たとひ、借金することありとも、信用少なきものよりは、利息安くかつ抵當を要することなく、借り得らるべし。また、得意客も、自宅に近き不信用の商店より買はずして、遠くとも、信用ある商店の前に群をなし、代價の押し引きもせず、買ひ取るに至るべし。

商人の世上における信用、かくのごとく厚

ければ、營業日に盛んに、財産日に殖ゆること、いはずして明かなり。

信用は、商人の資本にて、これを得るは、ただ、詐り欺かざるにあり。されば、商人たらんものは、約束を違へず、時日を誤らず、拂ふべき金銭は、かならず期日までに支拂ひ、惡しき商品は、惡しといひ、善き商品は、善しといひ、つねに誠實をもて取引をなし、信用のためには、生命をも棄てん覺悟をもつべし。

第二課 資本

商品をかつぎつつ、大道に賣りあるく小商人も、あまたの雇人を使ひて、日々數萬圓の取引する大商人も、それぞれ相應の元手金なかるべからず。これを資本といふ。資本は、ただ商品の仕入をする金銭のみならず、家屋・器械・飲食物・給料など、その商業を営むに必要なものは、みなこれに屬せり。

資本の中、ひとたび備ふれば、永久その業に使ふことを得るものを、固定資本といふ。土地・家屋・線路・汽車のごとき、是なり。また、商品・金銭

のごとく、つねに出入して、資本の用をなすものを、流通資本といふ。

固定資本と流通資本との割合は、商業の種類によりて、一樣ならず。鐵道業などは、全部ほとんど固定資本にて、露店商のごときは、全部ほとんど流通資本なるがごとし。ゆゑに、そのいづれを多くすべきかは、商種によりて定まる事なり。されど、普通小賣商などの、分に過ぎたる家屋を建築して、流通資本の不足を來し、失敗を招きし例、少なからず。資本を固定せし

むるは、熟考すべき事なり。

資本を得るは、かならず、勤勉して無用の費を省き、永年蓄積したる結果ならざるはなし。ゆゑに、商人は、つねに勤勉蓄積を専として、資本を増殖せんことを圖るべし。

第三課 利益

勤勉して蓄積せる資本を使ひ、多くの苦心と労働とを費して、商業に従事する上は、これに應じたる報酬あるべきこと、當然なり。この報酬を、利益と名づく。

利益は、その資本高に應じて生すべきこと勿論なれど、また、その商種の異なるによりて同じからず。確實安固の商業、競争者の多き商業などには、利益少なく、不確實の商業、競争者の少なき商業などには、利益多し。

されど、商業は、かならず利益を生ずるものと限られず。たとひ十分の苦心・労働をなしても、その見込誤れるか、または、他の事情によりて利益を生ぜざるのみならず、かへって資本の缺損を生ずることあり。これを損失といふ。

商業に従事する上は、時として損失なきを保しがたし。されど、十分の経験と信用とを有するものは、この損失を少なくすることを得るなり。

第四課 貸借

他人の資本を借りて、消費しまたは使用するを、借といひ、資本主よりいふときは、これを貸といふ。

他人の金銭または商品借りたる場合に、借主は、これを消費すること随意にて、約束の

期日まで、それに相當する金銭または商品
を貸主に返償すれば、可なり。されど、他人の土地、家屋または工場の機械などを借りたるものは、その期限内自由に使用することを得るのみにて、所有權は、なほ持主にあり。法律上にては、前者を消費貸借、後者を賃貸借といひ、また、貸人を債權者、借人を債務者といふ。

第五課 擔保品

資本の貸借、ことに消費貸借の場合にありて、借人、たとひ、一通の證書を出しおくとも、返

済期日に至りて違約し、返済の義務を果さざるときは、貸人の損害少なからざるべし。この損害を豫防せんため、貸人は、あらかじめ、借人の所有せる土地、家屋、家財、有價證券の類を預りおくにあらざれば、貸出しを承諾せざるべし。この預り物を擔保品といふ。擔保品に質物、抵當物の別あり。

されど、借人、もし、誠實なるときは、この擔保品などを求むることなく、平素の性行を信用して、快く貸出しを承諾すべし。これを信用貸

借といふ。商人の信用を重んずべきこと、これによりて明かなり。

第六課 利子

資本は、勤勉にして浪費を省き、これを貯蓄したる結果にて、よくこれを用ゐるときは、かならず利益を生ずべし。ゆゑに、もしこれを借らんことを望むものありても、ただ貸すものはなく、かならず、相應の報酬を得んことを望むべし。この報酬を、利子または利息といひ、利子を生ずべき元手を、元金といふ。

元金に對する利子の割合は、一日または一箇月または一箇年何程と定め、元金十分の一に當るを、一割といひ、百分の一を、一分(歩)または一朱といひ、千分の一を、一厘といふ。たとへば、年一割の利子といへば、元金壹百圓につき、一箇年に利子金拾圓となるがごとし。また、銀行預金などには、日歩何錢といふ定めを用ゐることあり。これは、元金百圓につき、一日何錢の利子なるをいふ。

利子の計算法に、單利法と重利法とあり。單

利は、最初の元金高にのみ利子を生ずれども、重利は、年一回または二回、雙方の契約に従ひ、利子を元金に加入して、次回の元金となす法なり。

利子の割合は、法定利率として、ある訴訟につき、裁判官が、特に法律によりて利子を指定する場合には、年利五分の定めなれど、その他は、貸借雙方の承諾に従ひ、一定ならざること、なほ物價のごとし。ゆゑに、世上一般に金融の緩漫なる場合には、利子低く、年末・盆前など金融

の活潑なる場合には、利子高く、信用あるものは、不信用のものよりも低く、小口の金圓は、大口の金圓よりも手数を要するゆゑ、割合高くなるが常なり。

第七課 資本の運轉

ここに、質屋あり、月の一日に、若干金を貸したるに、五日の後に、元利併せて返済せられ、また、六日に貸し出したるに、二十五日に元利併せて返済せられ、また、さらに、二十六日に貸し出したるに、三十日に元利併せて返済せられ

たりとせば、元金は、一箇月中に、三箇月分の利子を生じたるなり。もし、これを、一箇月六回運轉せんには、平常の利息の六倍ほどを得ることとなるべし。かくのごとく、資本を幾度も運用するを、資本の運轉といふ。資本の運轉は、商人にもっとも必要な手段なり。

資本の運轉早ければ早きほど、その利益多きは、右の一例にて明かなり。ことに、商人は、朝に買ひて夕に賣ることをも得るものなれば、たとひ、薄利にても、早く買ひ入れて早く賣り、

なるだけ、幾回も運轉して、商品をねかしおかざるようにすること、もつとも肝要なり。

商人には、原價の一割または二割の利を見ざるうちは、その商品を持ち續けて、賣ることを好まざるものあり。されど、もし、その利を半にして、安く賣り捌き、一度運轉すべきものを、四五度に増したらんには、結局二倍以上の利を得るに至らん。商人たらんものは、よくこれらの道理を心得おくべし。

第八課 會社

人には、おのおの、長短得失あるものなれば、もし、同志數人各自の金錢・物品または勞力を合して、一の營業を創むるときは、その資本大いなるうへ、營業上諸方面の長所を占むるがゆゑに、これを各人別々に營業する場合に比べれば、その利することさらに多かるべし。

かくのごとく、數人の資本・勞力などを合して事業を營むものを、會社といふ。會社は、すべて、法律上一個の人と見なし、獨立の財産を有し、また、獨立して權利を得、義務を負ふべく、裁

判上の行爲につきては、原告となり、被告となることを得べきがゆゑに、これを法人と稱す。

第九課 會社の種類

會社に、合名會社・株式會社・合資會社・株式合資會社の四種あり。左にこれを略説せん。

合名會社は、社員の資本を合して、一事業を營むものにて、無限責任なり。無限責任とは、會社の破産したる場合に、ことごとく會社の財産を出して、なほ負債を償ふに足らざるときは、その不足額は、社員の私産にて辨償すべき

責任あるをいふ。ゆゑに、この組織をなせる會社は、社員みな業務に勉勵する利益あれども、多數の社員を募り、大資本の會社を成しがたき憾みあり。

株式會社は、總資本高を、一株式何圓づつと平等に分ち、その出資者を、株主といひ、株主を證する證書を、株券といふ。この會社は、株主中より役員を選び、業務の主宰監督をなさしむれど、株主の責任は、有限なり。有限責任とは、會社の破産したる場合に、累を株主の私産に

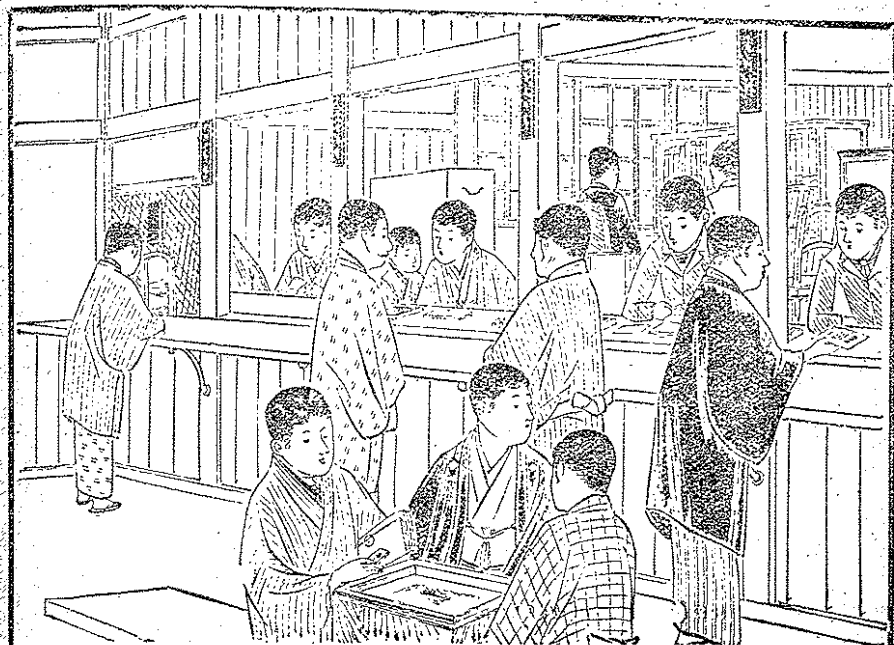
まで及ぼさざるをいふ。ゆゑに、この組織の會社は、廣く株主を募り、大資本の大會社を成すに適すれども、株主の會社に對する熱心は、合名會社に及ばざること遠し。

合資會社と株式合資會社とは、いづれも、當事者を無限責任、資本者を有限責任とし、前二會社の組織を合せたるがごときものなり。されど、後者は、資本を株式に分てるが、前者と異なる點なり。

第十課 銀行

銀行は、營業の種目多けれど、一方より遊金を低利にて預り、他の一方に必要な資本を高利にて貸し付け、かくて、資金の融通をはかり、また、爲替として、金銭を遠方に送達すること、を掌るなどの業務を目的とす。すなはち、世間一般の金融を調和する機關なり。

銀行は、株式または一己人の資本にて營業する一種の補助商業にて、銀行條例といふ法律の規定に支配せらる。さて、これを大別するときは、中央銀行・特設銀行・普通銀行の三種と



なすべし。

日本銀行は、諸種の銀行の首位にありて、すなはち、中央銀行なり。政府の國庫金を取り扱ひ、また、公債證書あるひは地金銀を政府に納めおき、兌換券と稱する紙幣を發行する特權を有し、全國の

金融を調和するを目的とす。

日本勸業銀行、日本興業銀行などは、おもに、農工業の發達を助け、正金銀行は、貿易の便を與へんために設けられたる特設銀行なり。普通銀行は、普通一般に公衆の便をはからんために設けられたるものにて、中には、特に生絲商人、酒造業者など、一部商人の機關銀行として設けられたるものあり。また、貯蓄銀行のごときは、貯蓄金を預かるを目的とするものにて、その仕組は簡易なれども、細民の貯蓄

を奨励し、勤儉の美風を養はしむる效は、少なからずといふべし。

第十一課 銀行預金

商人は、日々多數の金銭を要するゆゑ、つねに、これを手許に備へおかざるときは、臨時の間に合はざるべし。されど、空しくこれを貯蓄しおくときは、火災・盗難にかかる恐れあれば、むしろ、これを銀行に預けおきて、世の融通に供し、入用あるごとに隨意にこれを引き出すよゝにすべし。これも、とても安全にてかつ重

寶なる方法なり。

銀行の預金には、當座預金・定期預金・特別當座預金・貯蓄預金などあり。

當座預金とは、一日何回にても、預け入れまた引き出すことの自由なるものなり。この預金法は、現金出納の仕事を、全く銀行に委託したるも同様にて、わが手許には、あづかの釣銭などを留むる外、有金は、ことごとくこれを預けおき、金銭の入用ごとに、小切手にて引き出すことを得るなり。ゆゑに、この法は、あたかも

自己の金庫掛を銀行内に雇ひおくに等しき預金法なれば、西洋諸國にては、この預金に利子をつけざるを常とすといふ。

また、定期預金とは、はじめ、期限を定めて預けおき、その間は一切引き出さざることを約束するものをいひ、特別當座預金とは、當座預金に類すれども、ただ小切手の振出をなし得ざるものをいひ、貯蓄預金とは、その名のごとく、貯蓄の目的にて、零細の資本を預くるものをいふ。

これらの預金をなすときは、みづから金銭を貯藏する手数を省く上に、多少の利子を收め得る利益あり。ただし、もっとも確實なりと信ずる銀行を選ぶを第一とし、たとひ、預金の利子高くとも、不安心なる銀行とは、かならず取引すまじき事なり。

第十二課 爲替

遠隔の地と取引するとき、その代金などを正金にて送らんには、危険なる上、手数煩はしきゆゑ、商業の發達するに従ひて、爲替といふ

便法開けたり。こは、あたかも、正金を送達すると同一の効あるものなり。

爲替に、郵便局にて扱ふものと、銀行にて扱ふものとあり。いづれも、郵便と電信とに頼る郵便局にて扱ふ爲替は、銀行取引なきものの送金せんとする場合に便利なれども、金額に制限あるゆゑ、大金の爲替を取組みがたき不便あり。されば、普通の商業に常用せらるるは、銀行爲替もつとも多し。

いま、銀行爲替にて、東京の甲より大阪の乙

に送金すと假定せん。甲は、大阪にて取引ある東京の某銀行に正金を渡して、その手数料を拂へば、某銀行は、爲替手形またはこれに代用する小切手を作りて渡すべし。かくて、甲は、これを乙に郵送し、乙は、これをその指定の銀行に持参して、正金を受け取ることを得べし。されば、その結果、乙は、正金を東京の甲より送られたると同一なり。もし、この場合にありて、當座預金の取引あるものが、その銀行につきて、送金を依頼するときは、小切手を用ゐること

を得るがゆゑに、一層便利なり。
郵便爲替も、銀行爲替も、至急を望む場合には、電信爲替の便あれども、これに要する電報料等を加ふるゆゑ、手数料の不廉となるは、己むを得ざることなり。

第十三課 小切手

小切手は、ある銀行と當座預金の約束ある一個人または銀行會社の振り出す手形なり。小切手は、金若干を他人に支拂はんとし、または、遠方に送金せんとする場合に、かねて取

第五五編

當座小切手

渡先

寺田勇助殿

07636

（印）

金八百七拾圓也

右金額名指人又此切手持冬人
（支拂渡可被成作也）

明治廿五年十月三日

東京市下谷区中根岸町三十一番地

中村太郎（印）

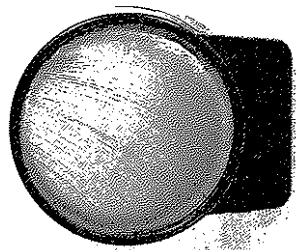
東京市日本橋區田町町
株式會社 東京銀行 中

初等商

引銀行ト
受取人
銀行に依
る金高の
べし。さて
これを銀
を得べし
入れ、あ
由なり。
また、堂

に、金額
支拂を
入れた
得らる
以内に、
ること
て預け
こと、自
間に當

（印）



を得るが

郵便

は、電信

料等を加

むを得ず

送

小切手

一個人

小切手

たは、遠方

場合に

る電報

るは、己

束ある

形なり。

とし、ま

ねて取

引銀行より交附しおける小切手用紙に、金額、受取人氏名などの要項を記入し、その支拂を銀行に依頼するものにて、銀行に預け入れたる金高の盡くるまでは、幾枚も發行し得らるべし。さて、受取人は、その日より、一週間以内に、これを銀行に持参して、正金を受け取ることを得べく、また、これを自己の預金として預け入れ、あるひは、裏書して第三者に渡すこと、自由なり。

また、當座預金者は、かねて、銀行との間に當

座借越約定といふを取り結びおき、預金の盡きたる場合にも、約束の金高までは、小切手を發行し得る法あり。また、保證小切手として、その支拂を銀行に保證せしむる法もあり。

小切手は、もと、信用によりて通用せらるるものなれば、もし、虚偽不正の小切手を發行するものあるときは、金千圓以内の罰金を科せらるべし。

かく、小切手は、一覽拂の手形にて、銀行は、持参人の誰たるを問はず、ただちに支拂ふべき

義務あるものなり。ゆゑに、もし、遺失・盗難などにて、不正の者の手に入りたるときは、これら不正者の支拂請求を豫防する法なかるべからず。すなはち、普通の小切手に二本の並行線を朱書せる横線小切手を用ゐること、是なり。この小切手は、銀行より支拂を求むるにあらざれば、これに應ぜざることを表示するものなれば、たとひ、普通人は、持参することありとも、その支拂を拒絶せらるべし。これは、なほだ不便なるがごとくなれど、その小切手の受取

人は、これを、自己のかねて取引ある銀行に預け入るることを得るゆゑ、少しもさる憂なし。

第十四課 約束手形

商法にて、手形と稱するは、約束手形、爲替手形、小切手の三つなれど、世人は、通常、前の二つを指して、單に手形と稱す。

いま、中村某が、寺田某の製造品金七千五百圓分を、一箇月の掛けにて買ひたる場合に、中村某が、寺田某に對して、一箇月の後に七千五百圓を支拂ふべき證書を振り出すとせよ。こ

の 仕 入 脱 にも

第三七號

印
紙

約束手形

四七五

一金七千五百圓也

右金額貴殿又ハ貴殿ノ指圖人へ此手形引換ニ無相違仕拂可申候也

振出地 東京市

支拂期日 明治三十五年十一月一日

支拂地及
支拂場所
東京市日本橋區虎町一番地
株式會社第一銀行東京本店

明治廿五年
十月一日
東京市下谷區中根岸町
二十一番地

中村太郎 印

寺田勇助殿

も 形 四 日 つ を れ

人 け 形 を 圓 村 百

<p>表面之金額 副島義優 殿</p> <p>又ハ同人指圖人へ御仕拂可被成候也</p> <p>明治廿五年十月三日 寺田勇助 印</p> <p>明治 年 月 日</p>	<p>表面之金額 殿</p> <p>又ハ同人指圖人へ御仕拂可被成候也</p> <p>明治 年 月 日</p>	<p>表面之金額 殿</p> <p>又ハ同人指圖人へ御仕拂可被成候也</p> <p>明治 年 月 日</p>	<p>表面之金額 殿</p> <p>又ハ同人指圖人へ御仕拂可被成候也</p> <p>明治 年 月 日</p>	<p>表面之金額 正ニ受取候也</p> <p>明治 年 月 日</p>
---	--	--	--	-------------------------------------

預 し 手 つ 百 中 五 乙

の證書を、約束手形といふ。これ、わが國にて、も
 っとも廣く行はるる手形なり。
 約束手形に記載すべき要件は、(一)約束手形
 の文字、(二)金額、(三)受取人の氏名または商號、(四)
 仕拂の約束、(五)振出年月日、(六)振出地、(七)満期日、
 (八)仕拂場所などなり。すべて、手形類には、むつ
 かしき法理ありて、これに記載すべき要件を
 脱したるときは、無効となるなどの恐れある
 ものなれば、振出人も受取人も、みな、よくこれ
 に注意せざるべからず。

約束手形の受取人は、その手形を他人に譲り渡すこと自由なり。この場合には、手形の裏面に裏書せんことを要す。

約束手形を銀行に持参して、割引を請ふときは、ただちに正金を得る便もあり。ゆゑに、手形いよいよ盛んに行はるれば、金融いよいよ圓滑なり、

第十五課 爲替手形

いま、東京の書肆中村某が、大阪の紙屋小村某より紙を買ひ入れ、いまだその代金を拂は

註文を

ひ、伊藤

勘定は、

の受け

某に拂

濟むべ

と送金

法なり。

爲替手

第三五號

印

紙

爲替手形

一金五千圓也

右金額小村正一郎 殿又ハ同人指

圖人へ此手形引換ニ御仕拂可被成候也

支拂地 大阪市

支拂期日 明治三十五年十二月一日

明治卅五年

東京市下谷區中根岸町
二十一番地

十月一日

中村太郎 印

大阪市東區南本町三丁目壹番地

伊藤金次 殿

引

明治三十五年十月五日

株式第一銀行大阪支店
支拂場所 大阪市

受

伊藤金次 印

表面之金額 田中松藏 殿
又ハ同人指圖人へ御仕拂可被成候也

明治廿五年十月九日 小村正一郎 印

表面之金額
又ハ同人指圖人へ御仕拂可被成候也 殿

明治 年 月 日

表面之金額
又ハ同人指圖人へ御仕拂可被成候也 殿

明治 年 月 日

表面之金額
又ハ同人指圖人へ御仕拂可被成候也 殿

明治 年 月 日

表面之金額
又ハ同人指圖人へ御仕拂可被成候也 殿

明治 年 月 日

表面之金額正ニ受取候也

明治 年 月 日

六

人に讓
形の裏

請ふと
ゑに、手
よいよ

屋小村
を拂は

ざるに、大阪の書店伊藤某より、書籍の注文を
受け、これを送りたりとせよ。

この時、中村某は、小村某に紙代を拂ひ、伊藤
某は、中村某に書籍代を拂へば、三人の勘定は、
全くかたづくなり。されど、もし、中村某の受け
取るべき書籍代を、伊藤某をして小村某に拂
はしめても、なほ、三人の貸借は、等しく濟むべ
し。これ、爲替手形の起るゆゑにて、手數と送金
費用とを省くに、もっとも簡便なる方法なり。
なほ、前例につきていへば、中村某は、爲替手

形の振出人、小村某は受取人、伊藤某は支拂人にて、爲替は、この三人ありて、はじめて成り立つものなり。その記載すべき要件は、約束手形よりもやや多し。

爲替手形の受取人は、仕拂人をして、引受といふ仕拂の責任を明かにせしむべく、また、この手形に裏書して、他人に譲り渡すこと、自由なり。もし、期日に至り、支拂人、これを支拂はざる場合には、その所持人は、支拂拒絶證書を製作して、振出人またはその前の裏書人に對し

て、償還を求むることを得るがゆゑに、少しも損害を被る憂なし。

第十六課 割引

いま、機屋ありて、太物卸商に、金千圓の商品を、三箇月掛けにて賣り込み、約束手形にて、その代金を受け取りたりとせよ。機屋は、三箇月の後を待たざれば、さらに、原料を仕入れて織製すること能はざるゆゑ、はなはだ不便を感ずべし。割引は、すなはち、この不便を除き、自他を益する方法なり。

もし、かの機屋が、この約束手形を銀行に持
参し、割引依頼表に式のごとく記入して、割引
を依頼するときは、銀行は、たとへば、百圓につ

[illegible]

割引とは、手形の額面より、その支拂期日までの利子を引き去りたる金額にてその手形を賣買するをいふ。これ、また、銀行業務

き日歩を參錢五厘として、千圓に對する九十日間の利子參拾壹圓五拾錢を割引料として引き去り、殘額九百六拾八圓五拾錢の正金を機屋に支拂ふべし。ゆゑに、機屋は、これにより、ただちに、新商品の織製に取りかかり、資本の運轉を速かにすることを得る便利あり。

第十七課
荷爲替

遠く隔りたる二商人の間に、荷爲替と稱する一法行はる。これ、荷物を擔保としたる一種の爲替なり。

いま、東京の商人より、大阪の商人に、荷を送るに當りて、先方より代金を送り來るを待つときは、多くの日數を経べく、もし、先方の商人不正のものならんには、荷物を受け取りながら、代金を支拂はざることにあるべし。かかる場合に、荷主は、荷受人を支拂人として、荷爲替を取り組むときは、この不便を免るることを得べし。

荷爲替を取り組まんに、荷主は、荷物を積み出すと同時に、その受け取るべき代金に對

印 紙 錢

爲替手形副證書

- 一 明治 年 月 日ヨリ明治 年 月 日マテ向フ
年 間ニ抽者ヨリ振出シテ
- 二 振替手形ヲ以テ荷爲替取組相領候節ハ總テ左ノ約定ニ依リ可申候
ル者ニ於テ荷爲替金受取候節ハ爲替手形ノ擔保トシテ積荷證書又ハ海上保險附(合名會社三井銀行ヲ被保險者トナシタル積荷證書或ハ通關手形添へ)其の積荷證書又ハ積荷證書(引換後ニ係ル時ハ貨物)ハ支拂人へ御渡可被下候
支拂人爲替手形ノ支拂又ハ爲替手形並ニ積荷證書又ハ積荷證書(引換後ニ係ル時ハ貨物)ハ支拂人へ御渡可被下候
支拂人爲替手形ノ支拂又ハ爲替手形並ニ積荷證書又ハ積荷證書(引換後ニ係ル時ハ貨物)ハ支拂人へ御渡可被下候
支拂人爲替手形ノ支拂又ハ爲替手形並ニ積荷證書又ハ積荷證書(引換後ニ係ル時ハ貨物)ハ支拂人へ御渡可被下候
- 三 可被下候不足相生候ハ速ニ抽者ニ於テ支拂可致候
保ノ貨物適宜分ノ上爲替金額運賃料延滞日歩其他爲替取引ヨリ生レタル總テノ費用御引去リ
保ノ貨物適宜分ノ上爲替金額運賃料延滞日歩其他爲替取引ヨリ生レタル總テノ費用御引去リ
保ノ貨物適宜分ノ上爲替金額運賃料延滞日歩其他爲替取引ヨリ生レタル總テノ費用御引去リ
保ノ貨物適宜分ノ上爲替金額運賃料延滞日歩其他爲替取引ヨリ生レタル總テノ費用御引去リ
- 四 此場合ニ於テモ之レヨリ生シタル諸費ハ抽者ニ於テ支拂可致候
火水盜難紛失等因ノ不可抗力タル否トハ問ハス擔保ノ貨物減失毀損減量變質等致候爲メ其他凡テ支拂
申問數候
入ニ於テ爲替金額及附隨ノ費用ヲ支拂ハサル時ハ抽者ニ於テ總テ損失ノ危險ヲ負擔シテ貴行へ御迷惑相被
爲替手形紛失又ハ毀滅レタル場合ニ在テハ御通知次第貴行ノ帳簿ニ據リ再ヒ手形ヲ作成致候トモ又ハ爲替金ヲ
拂込候トモ總テ貴行ノ御持圖通り手續可致候事
前記名項ノ義務ハ抽者ト保領人ト連帶シテ履行可致候依テ約定證如件
- 五 爲替手形紛失又ハ毀滅レタル場合ニ在テハ御通知次第貴行ノ帳簿ニ據リ再ヒ手形ヲ作成致候トモ又ハ爲替金ヲ
拂込候トモ總テ貴行ノ御持圖通り手續可致候事
前記名項ノ義務ハ抽者ト保領人ト連帶シテ履行可致候依テ約定證如件

銀行御中

振出人
保證入

明治 年 月 日

し、荷受人に宛てたる爲替手形を作り、運送業者の發行せる積荷引換證および爲替手形副證書などとともにこれを甲銀行に交附し、割引を請求して、代金を受け取るべし。

甲銀行は、この一切の書類と荷爲替通知發送書などを、荷受人所在地の取引先なる乙銀行に郵送し、乙銀行は、荷受人より爲替金を受け取り、一切の書類を交附すべし。

荷受人は、その受けたる書類中の、積荷引換證にて、運送問屋より荷受けすることを済せ

ば、荷主との取引全く終り、代金を遠方の荷主に送る手數も省けて、いづれも大いに便益を受くるなり。

第十八課 倉庫業

商人は、みづから堅牢の倉庫を造りて、商品を納めおかんとすれば、多くの資本金を要し、實行しがたき憾みあれば、これを倉庫業専門のものに寄託するを常とす。

倉庫業とは、あまたの倉庫を備へおき、商品保管の寄託を受け、その庫敷料すなはち保管

料を収むる一種の補助商業をいふ。

保管中における商品の雨漏り等によりて生じたる損害は、倉庫主これを辨償す。また、商品は、火災保険を附けおくが常なり。ただ、天災地變、その他、包装の惡しきか、または、商品の性質により自然に變化せしかによりて生じたる損害に對しては、責任なし。

商品の寄託を受けたるときは、倉庫主より、預證券および質入證券といふを貨主に渡すべし、預證券は、貨物の預り證にて、質入證券は、

貨主が、この商品を擔保として、銀行より借金する場合などに必要なり。この二證券は、なほ手形などのごとく、裏書して賣買讓渡をなし得るがゆゑに、少しも、商品を移動せしめずして、その所有權を移轉せしむることを得、運賃および手數を省くことまことに多し、

第十九課 保險業

保險とは、不時の損害を治する一法にて、平素、利益の幾分を割きて掛金をなしおき、他日損害ありたるとき、その損害の填補を受くる

をいふ。その掛金を、保険料といひ、その填補金を、保険金といふ。また、保険を引き受くる營業を、保険業といふ。

わが國、今日の保険業には、生命・火災・運送・海上などの數種あり。いづれも、商業上の關係深きものなり。たとへば、銀行業者は、火災保険の契約なき家屋を抵當として、貸金することゝ承諾せず、運送保険なき貨物は、荷爲替を拒むがごとし。

保険料は、保険金高に應ずれども、比較上危

險多きものは、保険料もまた高し。老病者の生命保険料は、幼者・強壯者よりも高く、木造の湯屋の火災保険料は、煉瓦造の銀行よりも高く、老朽船の船體および積荷の海上保険料は、堅牢の船體および積荷におけるよりも高きがごとし。また、保険金高は、保険物の價格と一致することあり、あるひは、これより少額なることありて、一樣ならず。

保険料は、非常の災害なかりしときにありては、無用の費用に似たれども、災害は測られ

ざるものなれば、つねに、營業費の一部と見なして、これを支拂ひおき、かくて、營業の安固を圖るべきなり。

第二十課 取引所

取引所とは、政府の定めたる取引所法によりて、米穀・肥料・石炭・株券などを賣買する市場をいふ。取引所の會員および仲買人は、一定の身元保證金を取引所に納めおき、所内に入りて、賣買・取引をなすことを得、一般公衆人の賣買は、すべて、仲買人の手を経て行ふものにて、

取引所には、賣買證據金を納め、仲買人に手数料を拂ふものなり。

取引所の取引には、直取引^{ダイキトリヒキ}・延取引^{ノベトリヒキ}・定期取引あり。一旦買ひ附けたる物の、いまだ現物を受け渡しせざる間に、その價騰貴するときは、これを賣り放し、その間の利益を收むるがごとく、現物を授受せずして、勝敗を争ふこと多し。これを轉賣^{テウバウ}・買戻といふ。

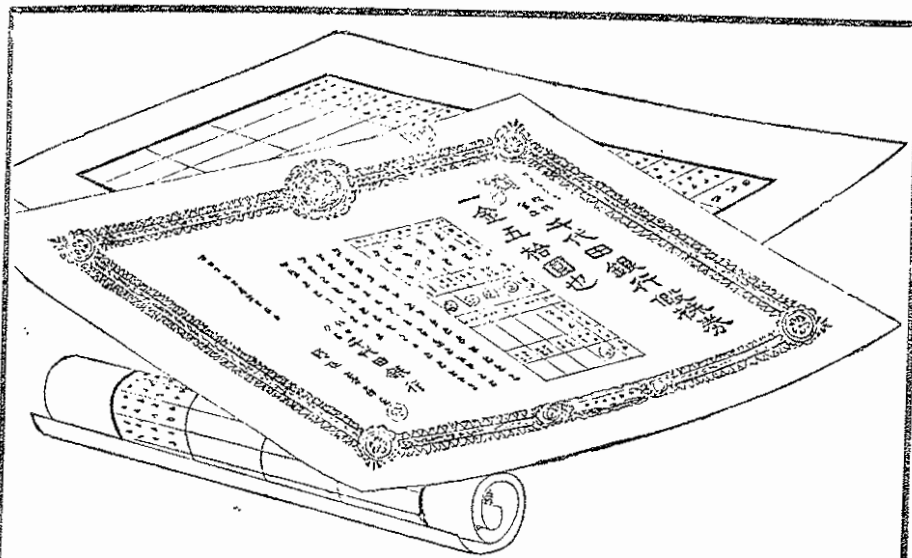
取引所は、多數の賣手・買手が一堂に集りて、内外の商況・將來のおもわくなど、すべて、需要・

供給の数を變化すべき材料を精思して、價を争ふものなれば、そのタテネは、もつとも公平にて、市場の標準相場となすに足り、世を益すること多し。されど、萬一の利益を僥倖して、みだりに賣買を試むるときは、祖先以來の資本を蕩盡してなほ足らず、路頭に迷ふごとき悲境に陥るに至らん。慎まざるべからず。

第二十一課 公債と株券

政府が、ある事業につきて、多額の金を要し、借金することあり。これを公債といひ、その證

券を公債證書といふ。軍事公債、整理公債等是なり。これを内地にて借るを内債、外國にて借るを外債といふ。また、府縣債、市町村債も、ただ大小の差あるのみにて、その理は、公債に同じ。公債の元金は、抽籤にて償還する法あり。中には、期限を定めて償還し、または、買ひ上げて償還するなど、その方法一樣ならず。その持主は、毎年一回または二回、その定めに従ひ、公債證書に附きたる利札といふを、一枚づつ切り離して、日本銀行に持参すれば、その利札の示



せる利子を受け取ることを得べし。

株券とは、株式會社の株主たることを證明する證書にて、その所有者たる株主は、會社の利益と損失とにつきて、權利と義務とを有す。

公債も株券も、みな、商品として賣買せらる。公債は、

利子一定せるゆゑ、市價の高低は、小變動に過ぎざれども、株券は、會社の盛衰・配當の多少によりて、株金拂込額の二三倍に上るものあり、また、十分の一に達せざるものもありて、ほとんど一定の標準なし。

第二十二課 商業上わが國の位置

地球上の各國は、その氣候・地質などの同じからざるにより、その產物も、また一樣ならず。北米合衆國に棉花・小麥粉を産し、英國に鐵物・織物を産し、わが日本國に生絲を産するがご

とき、是なり。

このゆゑに、各國たがひに産物の有無を交換するときは、國人の幸福を増進し、國家を利すること、きはめて大なり。ことに、貿易商は、ただ自國の生産物のみならず、外國産の物をも貿易し、その間の利を収めて自國の富を作ること多し。實に、農工業者の勤勉にして産業を盛んならしめ、商人の勇敢にして機才に富み、世界に雄飛して貿易を勉むるは、國家の至寶といふべきなり。

わが日本國は、その形、長く太平洋上に亘れる數箇の島嶼より成り、南は熱帯に起り、北は寒帯に及ばんとし、土地肥沃にて産物に富み、人民勇敢にて清廉なり。

世界の地圖を披きて、わが國の世界における位置を見れば、新舊二大陸の間に存在して、西には、清・韓・西比利亞など、廣大なる國土を控へ、東は、南北亞米利加と對し、南には、南洋諸島および濠太利など、無數の商業地の、目を追ひて開くるありて、あたかも、世界の商業線路の

焦點に當れり。

わが國の地形、すでにかくのごとく、位置、すでにかくのごとく、商業國としての天然の地理は、缺けたる處なし。もし、この天然の地理を利用して、貿易を四方に試みんには、わが國は、世界の市場となり、大いに富強を致さんこと、期して待つべし。

第二十三課 古今の貿易國

わが國上古の貿易業につきては、記すに足るべきものなし。およそ三百年前に至り、敢爲

の士、あひ争ひて、遠く安南、暹羅、呂宋、交趾等に航し、一時貿易の旺盛を極めたりしかど、徳川幕府が、天主教を嚴禁したると同時に、全くその跡を絶てり。その後、安政五年に至り、北亞米利加合衆國、露西亞、英吉利、佛蘭西、獨逸、五箇國の請を容れて、通商條約を結びてより、やうやくその數を増し、今日にては、二十餘箇國に及びり。

されど、おもなる互市國は、北亞米利加合衆國、佛蘭西、英吉利、獨逸、清、韓などに過ぎず。メキ

貿易物品價格國別一覽表 明治三十三年分



シコ・ペリユーのごときは、條約國とはいへど、

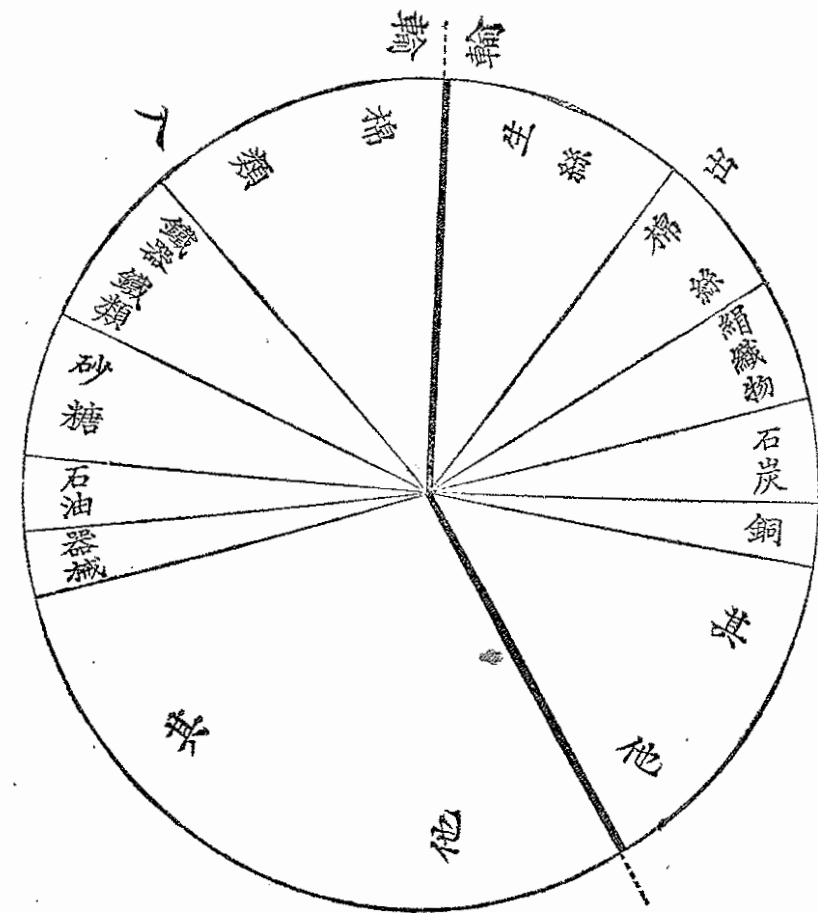
その互市は、かへって、獨立國にあらざるカナ
ダ・印度・濠太利に及ばざるなり。

第二十四課 重要な貿易品

國と國との貿易も、人と人との賣買のごと
く、その生産物の餘りあるものを賣りて、足ら
ざるものを買ふに外ならず。このゆゑに、貿易
品は、その國々によりて、一樣ならず。

わが國より輸出する主要品は、生絲・棉絲・絹
織物・銅・石炭・綠茶・米・海產物・陶磁器・燐寸等なり。
中にも、生絲は、わが國第一の輸出品に位し、毎

貿易品價格種類別一覽
明治三十三年分



年輸出高四千九百萬圓に達し、ほとんど總輸出價額の五分の一を占め、その輸出先は、絹織物とともに、亞米利加合衆國・佛蘭西・伊太利の三國を多しとす。その他、綿絲・銅・海産物の多く清國に向き、製茶の多くカナダおよび北亞米利加合衆國に向くがごとく、その仕向先は、おのおの同じからず。

つぎに、わが國に輸入する主要品は、棉花・砂糖・石油・鐵類・機械類・金巾等なり。一國の富を増さんには、輸出入品の數量を

多くして、貿易を盛んにせざるべからず。輸出入品を多くせんには、殖産興業を盛んにするにあり。物を造り出さずして、消費するのみにては、一國、たちまち貧弱の悲境に陥るべし。

第二十五課 貿易港

從來、わが國の貿易港は、横濱・神戸・大阪・長崎・函館・新潟の六港に過ぎざりしかど、近年に至りて、左の諸港をも、貿易港として許可せられたり。

駿河 清水港

尾張 武豐港

伊勢 四日市港

豐前 門司港

筑前 博多港

肥前 唐津港

同 山口津港

肥後 三角港

長門 下關港

對馬 嚴原港

同 鹿見港

同 佐須奈港

石見 濱田港

伯耆 境港

丹後 宮津港

越前 敦賀港

能登 七尾港

越中 伏木港

後志 小樽港

釧路 釧路港

樺太 室蘭港

備後 糸崎港

琉球 那覇港

臺灣 基隆港

同 淡水港

同 安平港

同 打狗港

同 舊港

同 下糊口港

同 後瓏港

同 東石港

同 塗葛窟

同 東港

同 鹿 港

同 媽宮港 マイン

横濱は、東京に隣り、亞米利加を對岸とせる好位置にあるゆゑ、その貿易盛んなり。神戸は、東洋諸港を始め、歐羅巴・濠太利諸地方との交通繁ければ、年を追ひて貿易額を増し、大阪は、古來あが國第一の商業地にて、目下築港の工事中なれば、他日かならず一大貿易港となるべし。長崎は、清・韓および露領ウラジオストツクに近く、もつとも有望の地なり。新潟は、河口淺くて、大船を入るる便なきゆゑ、いまだ振は

ざれど、西比利亞鐵道を利用し得る露領東部の貿易發達せば、函館とともに、日本海の要港となりて、大いなる繁榮を見るに至らん。

第二十六課 貿易商の徳義

貿易商の徳義として、あへて、内地商と異なるべきはずなく、ただ、誠實にして欺かざるを主とすべし。さて、内地商に不正者あるときは、當人または一地方の損害に止まれど、貿易上においては、然らず。一己人または一會社の不信用に止まらずして、廣く一國の不信用を來す

ものなれば、もつとも慎みて事に従ひ、一國の體面を汚さざるよゝにせざるべからず。

かつて、本邦製の燐寸の、著しく印度・支那地方に賣れ行きたることありき。奸商、この機に乗じ、粗製燐寸を混じて輸出せしかば、たちまち日本燐寸の不評判となり、つひに、品質良きものまでも販路塞がり、多くの燐寸會社をして、續々倒産せしむるに至りたりき。これ、壹錢を得んとして、百圓を失ふものにあらずや。もし、ひとたび、見本と實物と相違すること

あらば、買人は、一々商品を検査したる上ならでは、引き取らざるよゝになるべきは、當然のことなり。かかる手数は、大商人の堪ふことにあらざれば、むしろ、信用あるものの商品を買ふに至るべく、得意は、たちまち、われを去りて他に移るに至らん。

されば、貿易商人は、同業組合規約の有無に拘はらず、誠實を主として、その聲價を揚げんことを勉め、忍耐して、他年の成果を願はざるべからず。

第二十七課 關稅

一國より輸出する商品、および、一國に輸入する商品に對して課する税金を、關稅といひ、關稅を賦課徴收し、貿易品の出入を許否する役所を、稅關といふ。

現今、わが國にては、臺灣を除く外、輸出品に對しては、全く關稅を免除し、輸入品のみに對して、これを賦課す。すべて、輸入關稅は、日常品およびわが國製產品の原料となるべき物に安く、奢侈品およびわが國の製產品と競争し

易き物に高きを原則として規定せられたり。

稅金賦課の方法に、二種あり。一を從價稅、一

を從量稅といふ。從價稅とは、某品は元價運賃等を合算

したる金額の何割、某品は何割何分と、計算するもの

にて、從量稅とは、その價のいかに拘はらず、その斤量または箇數に従ひて、某品は壹斤何圓、某品は一枚何錢と、賦課するがごとし。

第二十八課 輸出入手續

わが國より、他國に貨物を輸出し、または、貨物を輸入する地は、かならず貿易港に限らる。

ゆゑに、貿易港以外の地にて、輸出入するとき
は、重き罰金を科せらるべし。

いま、他國に某品を輸出せんとするとき、
まづ、貨物を税關に入れ、記號・番號・箇數・物品・重
量・代價等を明記したる申告書といふを作り
て、税關に提出すれば、税關は、正當の手續を經
て、検査を終へ、輸出免狀といふを下附すべし。
この免狀を受けて船積を終ふるまでには、船
員との間に、種々の手續あり、貨物輸入の場合
も、大抵これと似たり。

税關内外の手續は、きはめて繁雜なる故、荷
受人および荷出人は、みづからその事にあづ
からず、貨物を運送問屋に委託するが如く、す
べて税關貨物取扱人といふ専門業者に委託
すること普通にて、また、きはめて便利なり。

第二十九課 外國の貨幣

外國貿易の事に當らんものは、外國貨幣の
ことにも通ぜざるべからざるゆゑ、つぎに、各
國の貨幣制度の大略を説かん。

世界各國の貨幣制度に、二種あり。單本位制、

複本位制是なり。單本位とは、金本位または銀本位といふがごとく、金銀いづれかの一種を貨幣の本位とすること、複本位とは、金銀の二種を本位とすることなり。

西洋諸國には、單本位の國あり、複本位の國あれど、實際は、わが國と同じく、金本位といふも不可なし。東洋の清韓二國および香港は、銀本位に近けれど、清國のごときは、制度いまだ確定せず、真に一國の本位貨幣と稱すべきものなく、人々、銀塊を秤りて、これを授受す。

いま、ここに、おもなる互市國の貨幣を略說せん。これらは、それぞれ相場に高下ありて一定せざるがゆゑ、日々の新聞を見て、これを知るべし。

清國 單位を兩テールといひ、その十分の一を錢セン百分の一を分といふ。

韓國 單位を圓ウォンといひ、その百分の一を錢センといふ。

香港 單位をドルといひ、百分の一をセントといふこと、亞米利加合衆國と同

獨逸

じ。ただ、香港のドルは、亞米利加合衆國のドルの二分の一に及ばず。

單位をマルクといひ、その百分の一をペンニーといふ。

佛蘭西

單位をフランといひ、その百分の一をサンチムといふ。

英吉利

單位をポンドといひ、その二十分の一をシリングといひ、シリングの十分の一をペンニーといふ。

第三十課 外國の度量衡

外國貨幣につぎて必要なは、その度量衡法なれば、左にされを概説せん。

各國の度量衡中ひとり、佛蘭西國制の廣く世界に用ゐらるるは、その基本に據あると、また、ことごとく十進法にて、單位以下と單位以上とは、十分の一・百分の一または十倍・百倍等の義なるデシ・サンチまたはデカ・ヘクト等の語を冠し、すこぶる記憶し易きとによる。これ、わが國の度量衡法においても、佛蘭西國の制度を採用したるゆゑなり。

佛蘭西國の制は、地球の赤道を四千萬分したるを、一メートルといひ、これを尺度の單位とす。およど、わが三尺三寸に當る。また、斗量の單位は、リットルにて、わが五合五勺四餘に當り、衡量の單位は、わが二分六厘六七に當る。されど、場合によりては、英吉利國および亞米利加合衆國の制を用ゐることも少なからず。器具その他一般の場合に用ゐるインチは、わが八分三厘八に當り、十二インチを一フートとし、三フートを一ヤードといひ、織物の丈

を測るに用ゐる。また、鐵道線路など、陸上測量に用ゐる一チェーンは、六十六フートにて、八十チェーンを一マイルとす。

また、俗に英斤と稱するポンドは、わが百二十匁九五七に當れども、普通は、百二十匁に換算す。

第三十一課 手形交換所

信用取引の發達するに従ひて、正金の代りに、手形にて支拂をなす法行はる。この手形は、正金と同じく、甲より乙、乙より丙に流通する

ものなり。

されば、各銀行が毎日受け取る手形の數は、はなはだ多く、その手形面に記されたる支拂銀行の名も、手形によりて、それぞれ異なるべし。このゆゑに、甲銀行が、千枚の手形を受け取るに、各手形の支拂銀行名一百とせば、甲銀行は、一百の銀行に對し、各手形面の金額を請求せざるべからずして、はなはだ手數を要すべし。また、その一百の銀行の方よりいふときは、甲銀行の支拂を受くべき手形を所持する銀

行も、また、多かるべし。

かくのごとく、毎日各銀行に集る手形を、たがひに一々差引勘定するは、はなはだ手數を要することなれば、毎日時間と場所とを一定して、組合銀行員あひ共に集會し、その席にて、たがひに手形を授受するときは、よく清算の目的を達することを得べし。これ、手形交換所にてする銀行の仕事なり。

ただし、一銀行の支拂ふべき高と、支拂を受くべき高とは、一致せざることを常なれば、その

差額は、正金にて授受すべきものなれど、大抵これを中央銀行の帳簿の上にて決算し、實際一錢の正貨をも動かさずして、日々數十萬圓の清算をなすことを得るなり。これ、信用の發達したる商業國には、實に必要な機關なりといふべし。

第三十二課 興信所

一個人または一會社の資産高・信用の程度等を内偵し、取引者の便をはかることを取り扱ふものを、興信所といふ。

銀行・商社その他一般の商人が、日々取引する相手は、すこぶる多數にて、かの人の資産高はいかに、かれは信用すべき會社なるかなどの疑問は、日々起ることなれど、一々探偵者を派出して、その内情を探らしめんことは、到底その費用に堪へざるべし。

興信所は、實にこの不便を除かんために起りたるものにて、まづ、所員を募りて所費を納めしめ、個人と團體とを問はず、商業上に名ある人々の實際を調査し、その報告書を出版し

て所員に配ることを、おもなる業務とす。この報告書には、イロハ順に、多くの人々の姓名を掲げ、住所・職業・過去の職業・實際の資本高・信用すべき程度等を、符號を交へて詳記し、これを見るものをして、ただちに、取引者の實際を知ることを得しむるなり。また、所員の望みによりては、特に指名せられたるものの内情を探り、または、遠隔地なる取引先の資産と信用のいかんを調査することもあり。

破産且夕に迫りながら、大家屋に住みて、虚

勢を張るものあり、相當の資産を有しながら、儉素にして、人に知られざるものもあり、その外観のみにては、知れがたし。興信所の必要は、ここに至りて、ますます大なり。

第三十三課 商業會議所

商業會議所とは、商工業上の利害を究め、商業の發達を圖ることを、目的とせる一の團體にて、地位・名望ある實業家によりて組織せらる。その會員は、會議所所在地の實業家中、規定の資格あるものの選舉によりて定まるも

のなれば、もとより名譽職なり。

商業會議所の事務權限は、同條例にて、左のごとく定められたり。

- 一、商工業の發達を圖るに必要な方案を調査する事。
- 二、商工業に關する法規の制定・改廢・施行に關し、意見を行政廳に開申し、および、商工業の利害に關する意見を表示する事。
- 三、商工業に關する事項に關し、行政廳の諮問に應ずる事。
- 四、商工業の狀況および統計を調査發表する事。
- 五、商工業者の委嘱により、商工業に關する事項を調査し、または、商品の產地・價格等を證明する事。

六、官廳の命により、商工業に關する鑑定人、または、參考人を推薦する事。

七、關係人の請求により、商工業に關する紛議を仲裁する事。

八、農商務大臣の認可を受け、商工業に關する營造物を設立しまたは管理し、その他、商工業の發達を圖るに必要な施設をなす事。

商業會議所の權限は、かく重大なるものに、定期の會議を開き、商工業上利害の關係ある問題を攻究して、その意見を定め、または、重大の事件に遇へば、他の會議所と連合會を開きて、その結果を世間に發表し、また、行政廳に

建言して、商工業界の振興を圖り、時としては、神聖なる仲裁者となりて、公平の判決を下し、事端を生ぜざらしむる等、經濟社會を利すること、實に少なからざるなり。

第三十四課 同業組合

同一の營業者が、箇々に營業するときには、その間、自然に競争を生じ、格外に物價を賣り崩すことあり、また、不正品を賣るものありて、同業者の信用をも傷つくることあり。これらは、みな、商人の不利益なり。

されば、同業者あひ集りて、仲間の規約を設け、萬事協同一致して、その規約を守り、惡弊を除かんことを期す。これを同業組合といふ。この規約は、一般公衆にも影響を及ぼすこと多ければ、中央政府または地方廳にて、その取締規則を設けて、これを監督す。

同業組合は、組合規約に違ふものに過怠金を課し、また、組合に要する費用を組合員に負擔せしむることを得るなり。

第三十五課 商法

國民はその國の法律を知りて、これに従ふべき義務あり。あれ、これを知らざるゆゑ、かなせりなどと、いふことを得ざるなり。

されど、法律の數は、はなはだ多く、ことごとくこれを暗記せんこと難ければ、商人は、その營業に關係の深き商法といふ法律だけにて、一通り研究しおくべし。

商法は、商事一切の規定を示したる法律にて、これに漏れたるは、舊來の商業上の習慣によりて決定し、その上は、民法として、庶民一般の

關係を規定したる法律に従ふべきものなり。商法等を知らざるにより、手續を誤りて、思はざる損害を被らざるべからざることあり。また、當然取るべき利益をも失ふことあり。大商人となるに従ひて、これら法律の必要を感ずること、ますます切なるべし。

第三十六課 租税

われら國民が、今日まで、いまだ、かつて、外國の侮を蒙らず、衛生、教育、交通など萬事の備はれる國內に、いと安らかに日を送ることを得

るは、何故ぞや。大は國家より、小は府・縣・郡・市・町村に至るまで、どれどれ政治機關ありて、その設備完きによるに外ならず。されば、この設備に要する入費は、國民の負擔すべきこと、もとより當然なり。この國民の負擔すべき入費を租税といふ。

租税に種々あり。中央政府が、國家を維持するため、に要するを、國税といひ、府縣廳・市役所・町村役場等、地方の小政治機關に要するを、府縣税・市町村税といふ。

租税は、爲政者が、隨意に賦課するものにあらず。まづ、翌年度に要すべき税額と賦課方法との豫算書を作り、議會の決議を経たる上に、て收納す。これを歳入といふ。また、その遣ひ拂ひは、これを歳出といふ。翌年度、議會に報告して、その出入決算を明かにすべきものなり。

國税は、地租・所得税・營業税・輸入關稅・酒醬油税等をおもなるものとし、府縣税以下は、管内地租・戸數割・所得税・營業税等に基づき、これに對する率を定めて、賦課徵收するものなり。

國民は、その財産・生命の安固を保せらるる權利を有する代りに、諸税を納むべき義務あり。このゆゑに、納税のことにつきては、みだりに苦情をいふことなく、また、遅延することなく、こころよく上納して、大小政治機關の澁滞なきよゝにせざるべからず。

第三十七課 營業税

各種の商業を営むものは、いふまでもなく、製造業・印刷業・席貸業・土木請負業等を営むものは、國税の一部として、毎年營業税を課せら

るる義務あり。

營業税は、營業の種類により、賣上金または資本金の多少・建物の大小・従業者の多少等を標準として算出す。左にその一例を挙げん。

業名	課税標準	税率
賣上金額	卸賣は萬分の五 小賣は萬分の十五	
物品販賣業 建物賃貸價格 従業者	千分の四十	一人毎に金壹圓
保險業 資本金額	千分の二	
銀行業 建物賃貸價格	千分の四十	
金錢物品貸附業 従業者	一人毎に金壹圓	

千分の六十
一人毎に金壹圓

第三十八課 商人終局の目的

商人の忍耐して衣食を節し、誠實を主とし、

初等商業教本 後編

わが國、歴史ありて以來、大資産を作りしもの、その數少なからざるべし。されど、その名の今日に存するものは、きはめて少なし。百代の後に名を留めしものは、大資産家にあらずして、國家のため衆庶のために忠實にて、よく國民の義務を盡したるもののみなり。

國民の義務を盡す道は、まことに多し。巨砲堅艦を造りて、國防を助くるも可なり。港灣を築き道路を開きなどして、交通を便ならしむるも可なり。學校・圖書館を建てて教育の普及

を謀り、孤兒院・癡疾院を起して、不幸者を救済するも可なり。これ、みな、富の力を假りて、始めてなし得らるべきものなり。

されば、富を作るに當りては、分厘の利を重んじ、これを散ずるに當りては、一擲萬金をも惜まざる商人を、眞の良商といふなり。

第三十九課 簿記

簿記とは、商業取引に關する一切の會計を整理する術なり。商業の盛衰・資産・負債の金額より、損益の勘定に至るまで、一目瞭然たらし

むるは、かならず、簿記によらざるべからず。

簿記に、單式と複式との別あり。單式とは、一つの取引を、そのまま記帳するものにて、舊來の大福帳、出納帳等、是なり。複式とは、一つの取引につき、その受けたるものと、その渡したるものとの二つに分ちて記帳するものにて、現今、會社、銀行にて廣く用ゐらるは、是なり。

簿記には、商業簿記、工業簿記、農業簿記、銀行簿記、官廳簿記、家計簿記等の種類あり。然して、商業簿記に使用する帳簿は、主要帳と補助帳

との二つに分たる。

主要帳とは、日記帳、仕譯帳、元帳を總稱したるものにて、取引あるに際しては、かならずこれに記入せらるべきものなり。日記帳とは、毎日起る取引を記入するものをいひ、仕譯帳とは、日記帳に記入せる取引を、貸借の仕譯して、元帳に轉記するに便ならしむるものをいひ、元帳とは、取引の結果を記入するものをいふ。元帳によりて財産の増減、負債の多少、損益のいかん等を、一見了解せしむることを得べし。

補助帳とは、主要帳を助け、その明細を知るに便ならしむるものにて、金銭出納帳・仕入帳・賣上帳・受取手形記入帳・支拂手形記入帳・荷受帳・得意先元帳など、是なり。いま、つぎに、簡略なる例題をあげて、これを諸帳簿に記入する一例を示すべし。

第四十課 商業簿記例題

明治三十五年六月一日 三木壽郎、左の資本にて、卸問屋を開始す。

手許有高、壹千七百圓。

臺灣玉砂糖貳百俵、四圓八拾錢替。

家屋二棟、見積代金壹千貳百圓。

同日、第一銀行に當座預金約定を取り結び、現金壹千五百圓を預け入れ、當座預金通帳および小切手帳を受け取る。

十日、小泉商店へ、左の通り、掛けにて賣り渡す。

臺灣玉砂糖百俵、四圓九拾五錢替。

十五日、太田商店より、左の通り、掛けにて買ひ入る。

獨逸砂糖、壹萬斤、百斤につき拾貳圓五拾錢替。

同日、右の品を濱田商店へ、拾參圓替にて賣り、現金にて受け取る。

二十日、小泉商店より四百九拾五圓、安田銀行宛小切手にて受け取り、直に第一銀行當座に預け入る。

日 記 帳

1

明治卅五年六月一日

摘 要	金 額
本日下記ノ資本ニテ卸問屋ヲ開始ス 手 許 有 高 1,700,— 臺灣玉砂糖貳百俵 四圓八十錢替 960,— 家屋二棟見積價格 1,200,—	3,860 —
第一銀行へ當座預金勘定ヲ結ビ現金ニテ預ケ入ル 10	1,500 —
小泉商店へ下記ノ通り掛ニテ賣リ渡ス 臺灣玉砂糖百俵 四圓九十五錢替 15	495 —
太田商店ヨリ下記ノ通り掛ニテ買ヒ入ル 獨逸砂糖一萬斤 百斤ニツキ 十二圓五十錢替 ,,	1,250 —
濱田商店へ下記ノ通賣リ渡シ現金ニテ受ケ取ル 獨逸砂糖一萬斤 十三圓替 20	1,300 —
小泉商店ヨリ安田銀行宛小切手ニテ掛代金トシテ 受ケ取り直ニ第一銀行ニ預ケ入ル 25	495 —
山口商店へ下記ノ通り賣リ渡ス 臺灣玉砂糖 百俵 五圓替 上記代金ニ對シ内貳百圓ハ現金ニテ受ケ取り殘金 ハ同店振出當店宛一箇月拂約手ニテ受ケ取ル 30	500 —
太田商店へ掛代金内金トシテ第一銀行小切手第一 號ヲ振り出ス ,,	1,000 —
本月分營業費現金ニテ支拂フ	30 —
合 計	10,480 —

初等商業教本後編終

廿五日、山口商店に、左の通り賣り渡す。
臺灣玉砂糖百俵、五圓替。
右代金に對し、内貳百圓は、現金にて受け取り、殘金は、同店
振出當店宛一箇月拂約束手形にて、受け取る。
三十日、太田商店に、掛代金の内金壹千圓也、第一銀行小切手
第一號を振り出す。
同日、本月分營業費用參拾圓、現金にて支拂ふ。
同日、本日、通常決算をなす。
右の例題により、日記帳・仕譯帳および元帳に記入せし雛形
を別表に示す。

太 田 商 店

7

月 日	摘 要	仕 譯 丁 數	借 方 金 額	月 日	摘 要	仕 譯 丁 數	貸 方 金 額
6 30	第一銀行	1	1,000 —	6 15	商 品	1	1,250 —
" "	殘 高	11	250 —				
			1,250 —				1,250 —

受 取 手 形

8

月 日	摘 要	仕 譯 丁 數	借 方 金 額	月 日	摘 要	仕 譯 丁 數	貸 方 金 額
6 25	商 品	1	300 —	6 30	殘 高	11	300 —

營 業 費

9

月 日	摘 要	仕 譯 丁 數	借 方 金 額	月 日	摘 要	仕 譯 丁 數	貸 方 金 額
6 30	現 金	1	30 —	6 30	損 益	11	3 —

不 動 產

4

月 日	摘 要	仕 譯 丁 數	借 方 金 額	月 日	摘 要	仕 譯 丁 數	貸 方 金 額
6 1	資 本 主	1	1,200 —	6 30	殘 高	11	1,200 —

第 一 銀 行

5

月 日	摘 要	仕 譯 丁 數	借 方 金 額	月 日	摘 要	仕 譯 丁 數	貸 方 金 額
6 1	現 金	1	1,500 —	6 30	太田商店	1	1,000 —
" 20	小泉商店	1	495 —	" "	殘 高	11	995 —
			1,995 —				1,995 —

小 泉 商 店

6

月 日	摘 要	仕 譯 丁 數	借 方 金 額	月 日	摘 要	仕 譯 丁 數	貸 方 金 額
6 1	商 品	1	495 —	6 20	第一銀行	1	495 —

高等小學校商業科兒童用
明治三十三年六月十八日
文部省檢定濟

不許複製

明治三十六年十月十四日
明治三十六年十月十七日
明治三十六年十一月卅日
明治三十六年十二月三日

印發行
訂正再版發行
訂正再版發行

初等商業教本全覽冊
定價
前編 金貳拾四錢
後編 金貳拾八錢

著者

切田太郎

發行所

辻太

發行所

東京市神田區小川町九番地
開發社

賣捌所 各府縣特約大賣捌所

T/43
67
Se93

損益

10

月日	摘要	仕譯丁數	借方金額	月日	摘要	仕譯丁數	貸方金額
6 30	營業費	9	30 —	6 30	商品	3	85 —
" "	資本主	1	55 —				
			85 —				85 —

殘高

11

月日	摘要	仕譯丁數	借方金額	月日	摘要	仕譯丁數	貸方金額
6 30	現金	2	1,670 —	6 30	太田商店	7	250 —
" "	不動產	4	1,200 —	" "	資本主	1	3,915 —
" "	第一銀行	5	995 —				
" "	受取手形	8	300 —				
			4,165 —				4,165 —

